

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、思いやりと助け合いの心を育てる人権教育の在り方

2 主題設定の理由

本校では、「のぞみ大きく、心ゆたかに、たくましく生きる、金沢っ子の育成」を教育目標としている。また、「命」「ドンマイ」「ありがとう」を金沢小児童の合言葉として掲げ、学級や校内にこの合言葉を掲示するとともに、全校集会や朝の会・帰りの会、学級活動等で、命や思いやりの気持ちの大切さを伝え、人権教育の推進に努めている。

本校の児童は、明るく素直で、思いやりがあるが、自己中心的な行動や相手の気持ちを考えない言動も見られ、トラブルが生じることがある。「ドンマイ」「ありがとう」と声をかけ合いながら、相手を思いやる心や助け合う心を育て、互いのよさを認め合うことで、自分のよさにも気付くことができるように本主題を設定した。

3 実践内容

(1) お互いのよさを認め合う活動

ア 称賛カードの活用

毎日の生活の中で友達に助けられたことや、友達にしてもらって嬉しかったこと、友達のよいところなどをカード（ありがとうカード、友達のいいところ発見カードなど）に書いて、友達に渡したり教室に掲示したりしている。

ウ よさを認め合う場の設定・連絡帳や週案の活用

帰りの会で「今日のありがとう」を発表している。児童だけでなく、教師も褒めることで友達のよさをみつけ、認め合うという意識を高めている。また、連絡帳や週案を利用し、児童一人一人の紹介や頑張ったことを知らせている。

エ 「かねさわかがやき賞」の制定

全職員で、児童の行いを認め、賞賛するとともに、友達のよいところや行動を発見した児童を認める手立てを試みている。

(2) 環境づくり

ア こころコーナー（人権コーナー）の設置

昇降口の壁面を「こころコーナー」に設置している。人権メッセージやポスターを掲示して、人権への啓発の場としている。

イ 各教室での取り組み

「ありがとうカード」や「いいところ発見カード」などを掲示している。友達のよさに気付いたり、感謝の心を表したりするよい機会になっている。

(3) 人権教育の啓発

人権教育週間を設置し、各学年の発達段階に応じたビデオ教材を視聴し、学年や学級で人権について話し合った。また、中学年・高学年では、全クラスで人権メッセージに取り組み、人権意識を高める機会となった。

4 成果

- (1) 様々な体験活動を通して、互いに認め合い・高め合う機会をもつことができ、相手を思いやる気持ちや助け合おうとする心が育ってきている。
- (2) 金沢小児童の合い言葉「命」「ドンマイ」「ありがとう」が浸透し、声をかけ合う度に笑顔が見られた。友達を思いやる心をもつことができ、友達のよさを認めることで、集団活動や友達との関係づくりが円滑になってきている。

II 今後の課題

- 1 友達のよいところを認め、思いやりの心が育っている。一方で、軽い気持ちでのからかいや「友達もやってるから。」といった判断力の乏しさを感じることもある。相手の気持ちを考えて行動することができる判断力と実践力、人権感覚の育成を今後も図っていききたい。
- 2 職員研修を行ったり家庭・地域への啓発を充実させたりして、学校・家庭・地域が連携しながら人権教育に取り組めるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

人権メッセージの掲示



金沢小児童の合い言葉

